

真の香港に触れて、今日も私は生きていく！

香港日本人商工会議所・香港日本人倶楽部 事務局長 日本香港協会 顧問 脇田 誠

2024年3月末、夕やみ迫る成田空港を飛び立ち、夜半の香港に降り立った。先人が長きに渡り様々な歴史を紡いできた商工会と倶楽部の事務局が、4月からの私の職場となった。あの日から10カ月、歴史ある日本コミュニティへの期待と多岐にわたる業務に翻弄される日々。疲労と重圧に耐えながら、真の香港に触れて、今日も私は生きていく！

さて、日本から香港へ来られる会社役員の中には、あえて土日を日程に加えて出張される方がおられる。出張業務の前後に、香港の街中、あるいは郊外に足を延ばし、香港の今を確認されているようだ、と航空会社の責任者から聞いた。帰国便搭乗の際、実際の香港をご覧になっていたいかがでしたか？と航空会社職員が質問すると、決まって、香港は変わっていない、活気があり、自由があり、グローバルビジネスのハブであることを再認識した、と言われるそうだ。日本の報道では、昨今の香港をどちらかといえばネガティブに語られることが多いように感じる。国家安全維持条例の施行や中国愛国教育の浸透、英語に増して中国語普通話の普及など、これまで香港の代名詞であった自由で開かれたイメージからは、レピュテーションが下がったように感じるだろう。翻って日本を考えてみよう。政治的にも、経済的にも海外に居るものからすれば、日本は大変に見える。自然災害も多く被害は甚大だ。でも日本人は負けていないし、力強く明日に向かって挑戦をし続けている。皆さんもそうでしょう。香港も同様だ。昨秋行政長官による施政方針演説を直接聴いた。長官就任から3年目になり、今後は経済テコ入

れや貧困層の環境整備にさらに力を入れるそうだ。別な機会では、財務長官と立ち話で、外国企業誘致促進の話をする機会があった。熱量を感じ直接対話ができる政府。これが香港なのだ。

2024年世界の経済自由度ランキングでは1位に返り咲いた。観光サービスの更なる向上、グローバル物流ハブ、テクノロジー&イノベーションハブとしての様々な目標も掲げている。そして香港特有のファミリービジネスの責任者の言動には、香港のみならず中国、そして世界で生き延びていくしたたかさを感じる。激動を生き延びる。それは日本も香港も同じだ。混沌と困難、その中でよりよい人生、豊かな生活を送るために、今、何をすべきか。次世代に何を残すべきか。香港の人たちは戦前から様々な体制変更や環境変化に柔軟に対応し生き延びてきた人たちであり、そういうDNAを持っている。私は毎日香港人から元気をもらう。皆さんも、是非香港へ来られて刺激を受け、今年も元気に頑張りましょう。



2025年1月 発行（禁無断転載）

目次

真の香港に触れて、今日も私は生きていく！	1
私と香港ビジネス ～コロナ禍の下での密かな楽しみ～	2
サモ・ハンも来日。日本で底力をみせた香港映画	3
各界で活躍する香港日本人学校OB・OG 第6回	4
シンポジウム「国際ビジネスセンター・ハイエンド市場としての香港の価値を再評価する」東京と大阪で開催	6
連合会・各協会便り	
全 国：「第25回香港フォーラム」&「第14回全国協会総会・交流会」開催報告	7
東 京：第19期CMMS「華人経営研究」講座は6月開講です	
2024年日本香港協会ゴルフ懇親会開催	8
関 西：香港経済の講演・シンポジウム開催	
「香港の集い」懇親パーティー開催	9

中 部：秋季セミナー&特別企画の開催	10
九 州：会員交流会の成果報告	11
山 形：香港国際見本市「Home InStyle」への出展について	
山形日本香港協会について	12
北海道：香港での思い出	13
宮 城：第112回理事会および事務局会議を開催しました	14
沖 縄：令和6年度 通常総会・ビジネスセミナー開催	15
広 島：広島ー香港直行便再開	16
新 潟：アジアフォーラム in 新潟2025 キックオフミーティング&決起集会の開催／シンガポール香港ビジネス協会デニス・チュー会長、新潟訪問	17
高 知：新年好！	18

私と香港ビジネス ～コロナ禍の下での密かな愉しみ～

NPO 法人日本香港協会（東京） 理事 笹部 泰男

私が香港に赴任をしたのは、2019年の4月だった。仕事の関係で過去に何度か海外の駐在経験はあったが、アジア圏での駐在生活は初めてだった。厳密に言えば、アジアと言うには少し微妙なインドに5年余り駐在をしたが、空気が綺麗で水道の水で体調不良にならず、公共交通機関に安心して乗れる香港の環境は、何とも素晴らしく感じられた。特に香港では日本の物が普通に手に入る事が、単身赴任生活に大きな安心を与えるように思われた。

MTR南昌駅の上にある新築マンションの46階の部屋に引越しが終わり、眼下の葵青コンテナターミナルとランタオ島越しに空港に発着する飛行機を遠目に見る光景に慣れた頃、ニュースで香港立法会が逃亡犯条例の改正を巡って大いに揉めている事を知った。ご存知の通りこの件は瞬く間に広範な抗議活動となり、大規模なデモと暴動にエスカレーションしてしまった。住まいの近くの深水埗地区でもデモ隊と警官との衝突があり、生まれて初めて催涙弾の臭いを嗅ぐと言う、余り有難くない経験もした。また弊社のオフィスは新界の香港サイエンスパーク内にあるのだが、11月の初めには近傍の香港中文大学にて学生と警官隊の衝突が発生し、オフィス一帯が数日間にわたって完全封鎖される事態も発生した。封鎖中にも関わらず心配性の私は、オフィスに徒歩で行ったところ非常線で警官隊に詰問され、その先のバリケードでは学生達に怪訝な目で見られ、その都度「アイアム・ジャパニーズ」で通り抜けた。変なところで、日本人で良かったと思った瞬間である。



コロナ禍でもこの賑わい：湾仔付近の車窓から

その後はご存知の通りで、2020年1月下旬の旧正月が明けると新型コロナウイルス感染拡大により、オフィスの閉鎖や様々な制限が発生して様相が一変した。思い返してみると私の香港駐在生活は、デモと暴動そしてその後のコロナと、それまでの日本人香港駐在者が経験するような香港とは異なるものだったと思う。

会社帰りの立寄りが殆ど無くなったため、帰宅をした後に新たに始めた習慣があった。軽装でジョギングとウォーキングをしながら、数時間ほど夜の街の隅々を散策する日課である。「この辺はこんな店舗が集まるエリア」とか「この道を行くと思いがけないところに出る」とか「夜遅くでもこの辺は案外賑わっている」とか、ささやかだが実に様々な発見があり、それがまた次のモチベーションに繋がるという恰好であった。

そのうち生来の乗り物好きが高じて、香港の公共交通機関を乗り倒してみようと思い立った。手始めにMTRの全路線を乗り、次に香港島のトラムも端から端まで全線を乗り、新界地区の元朗と屯門間のライトレールも全線乗ってみた。そして次なるチャレンジは、香港全域を縦横無尽に走る路線バスを乗り倒す事だった。

香港の路線バスは主に九龍バス（KMB）、シティーバス、ファーストバスの3社（その後シティーバスとファーストバスは合併）でMTRの駅や各所に大きなバスターミナルがあり、多くの路線が発着している。しかし探してみると、街の片隅や住宅街の停留所が思わぬところに行く路線の始点になっていたり、高速を長駆して香港島や新界地区の方まで行く路線や、街中の路地を縫うように走る路線など、乗れば乗るほど興味深いのである。

童心に返って二階席の先頭に座り、前面に広がる景色と共に普段は目にしない香港を観察するのが日課となった。オーバーハングした先頭の席が路地裏の急な角を曲がる際に建物にぶつかるような錯覚や、夜の高速を疾走する爽快感、また思わず天井に手が届くようなトンネルの中をすり抜けるスリル等、香港の路線バスは幾重にも楽しませてくれるのである。新界地区の鄙びた村落を抜けた終点は、何もない停留所のフェンスの向こうが深圳であったり、大帽山の峠を越え謎の軍の駐屯地を抜けて元朗の方まで行ってみたり、週末しか走らない路線に乗って広大な自然公園の先まで行ってみたり、普段では目にする事のない香港の風景をパノラマで見せてくれるのが路線バスだった。

帰任の命を受けて、香港を発ったのが2022年の7月だった。結局帰任するまで、コロナによる行動制限は一部緩和されたが解除はされなかった。私の3年余りの駐在は非常時のような香港での生活であったが、そのような中で普段と変わりなく運行を続ける公共交通機関が、コロナ禍での心許ない私の気持ちを大いに救ってくれたのである。

サモ・ハンも来日。日本で底力をみせた香港映画

NPO 法人日本香港協会（東京）広報委員 武田 信晃

2024年10月31日、東京の浜松町にある東京ポートシティ竹芝の会場は会場いっぱいの400人を超える香港映画ファンであふれかえった。カンフー映画の重鎮のサモ・ハンが来日し、カンフー映画についてのパネルディスカッションに参加したからだ。また、第37回東京国際映画祭（TIFF）では、名優トニー・レオンが審査委員長を務め、11月に東京、大阪、福岡で開催された「Making Waves～Navigators of Hong Kong Cinema」という香港映画祭では、前売り券があつという間に売り切れるなど、香港映画の人気の高さを見せた。

◆香港映画ラッシュ

24年10月末から25年1月にかけての香港映画上映ラッシュはすさまじい。24年10月28日から11月6日までTIFFが開催され、香港映画は6作品が上映された。TIFFに合わせてアジアのコンテンツマーケットであるTIFFCOMが行われた。11月は、東京、大阪、福岡の3カ所で「Making Waves～Navigators of Hong Kong Cinema」が実施された。同22日からはクライムアクション映画の『盗月者 トウゲツシャ』、25年1月17日からは『トワイライト・ウォリアーズ 決戦！九龍城砦』、同24日からは『ゴールドフィンガー 巨大金融詐欺事件』が上映された。

◆資金調達をどうする？

今回興味深かったのは、香港貿易発展局（HKTD）など関係各局が主催した「Hong Kong Film @ Tokyo」という2部制のセミナーだ。第1部はプロデューサーのスタンリー・クワン、映画監督の松永大司、脚本家のジュン・リーなどがパネルディスカッションにのぞんだ。

映画を作るのに大きな課題となっているのが資金集め。そう、無い袖は振れないからだ。民間からスポンサーなどを募るのは容易ない。カギになったのは各政府が行っている助成制度の活用。前述の3氏は『酒色男女』という映画で香港政府から110万米ドルの助成を受けているが、松永監督によるとリー氏は脚本を書いている時からお金を集めることを見越してシナリオを作るという。例えば、ある国でロケをするならば当該国の助成金を使う

ことを視野に入れているのだ。

サモ・ハンが登場した第2部。また、香港映画には欠かせない俳優の倉田保昭、アクション指導の谷垣健治監督が登場し「カンフー映画：過去、現在、そして未来」というテーマでパネルディスカッションを行った。

香港映画は、大ヒット作は出るが、それ以外は動画配信サイトなどに押され、映画館の閉館が続く。カンフー映画の状況も厳しく、このままでは長年、培ってきたいろいろなノウハウが途絶える懸念があるという。サモ・ハン「皆さんが映画館に足を運んでもらう事が一番のサポート」と語った。つまり、そんなことを言わなければいけない厳しい状況であることを思い知った言葉だった。

セミナー終了後、会場を移してレセプションパー



香港映画関係者が一堂に会したパーティー

ティーが行われ、倉田保昭が単独インタビューに応じた。「香港映画は必ず復活します。ただ、世界に出ていくアクション俳優が育っていないので、時間はかかるかもしれませんが」

日本の時代劇もカンフー映画のように勢いがなかったが、『SHOGUN 将軍』がエミー賞を獲った。「真田広之君が外国で時代劇を作ったからです。日本で製作して外国に持っていったら無理だったでしょう。一方、香港は内製して外国に持っていったって大丈夫です」と香港映画の底力を強調した。

Making Waveでは、香港で現在、たくさんの映画記録を破り続けている『ラスト・ダンス』取材した。香港映画でもほぼ描かれたことのない葬儀屋の業界を扱った作品で、かつ伝統的な価値観を持つ家庭の親子関係が表現されている。上映後、アンセルム・チャン監督、マイケル・ホイ、ダヨ・ウォンらの出演陣がトークショーに参加した。

「なぜこの題材を選んだのか？」についてチャン監督は「この映画で描かれる葬式は『破・地獄』と書くが（ラスト・ダンスの中文題でもある）、民間伝承の形で道教のやり方です。特に若くして亡くなった人が地獄に行かないように道士が救おうとするが、それは香港を代表する文化だと考えた」

これらのイベントを通して、素晴らしさから問題点まで香港映画の現状が浮き彫りになった期間だったと言えるだろう。



TIFFCOMでの香港のブース。宮沢氷魚さんも来場

かつて香港日本人学校に通ったOB・OGで、現在第一線で活躍する人たちに香港の思い出と今のお仕事を聞きました。

ゲスト：三上真奈さん（フジテレビ・アナウンサー）
聞き手：平野 純一（NPO法人日本香港協会広報委員）
伊東 正裕（NPO法人日本香港協会広報委員）



三上真奈さん

◆日本人学校の制服が可愛かった

——香港に住んでいたのはいつごろですか。

三上 小学校2年の夏休みから3年の終わりまで（1997～99年）です。香港の空港に着いた時の第一印象は「すごく暑いところだな」でした。家は香港島クオリーベイ（Quarry Bay）のコーンヒル（Kornhill）という高層マンション群で、近くにジャスコ（現イオン）の旗艦店があり、日本人が多く住んでいる場所でした。

——香港日本人学校はいかがでしたか。

三上 授業はとても丁寧で、よい友達にも恵まれて楽しかったです。1クラスは30人くらいでしたが、全体の児童数はかなり多かったですね。マンションの下にスクールバスが来て、ブルーブルロード（藍塘道）の日本人学校まで15～20分でした。3歳上の兄がいるので一緒に通っていました。グレーの制服がとても可愛くて素敵で、日本の小学校では制服がなかったので、私の“人生初制



香港日本人小学校でのクラス写真（前列左から4人目が三上さん）

服”です。両親もこの制服をととても気に入ってました。

——家族でよく行っていた場所はありますか。

三上 楽しかったのはオーシャンパークです。あと飲茶は家族でよく行きました。私が好きなのは大根餅とごま団子でした。最初は子供なので好き嫌いもあり、食べられるものが多くなかったのですが、この二つは大好きでした。何度も行くうちにほとんどのメニューを食べられるようになり、今では中華料理は何でも大好きです。和洋中のなかでも中華が一番です。

母は料理が好きで、夜ご飯は母の手料理を家で食べることが多かったですが、でも外食するとやはり母の機嫌がいいので（笑）、そんな母の姿を見ることが楽しかったことを覚えています。

——スイーツなどはいかがでしたか。

三上 エッグタルトがとても美味しくて好きでした。よく食べていましたね。今は日本でも買えますが、当時日本にあのお菓子はなかったと思います。香港はフルーツも豊富でしたね。マンゴーはよく食べました。当時マンゴーは日本では高級品という感じでしたが、香港では普通にあるフルーツです。ライチも好きでした。ライチも日本ではなかなか食べられないですね。

◆香港国際バレエ・コンクールで銅賞

——香港の後は、上海に行かれたのですね。

三上 はい。小学校4～6年は上海に住み、上海日本人学校に通いました。香港の前の幼稚園のころは台湾（台北）にも住んでいたの、12歳までの計7年くらいは海外生活です。

香港日本人学校はクラス数が多かったですが、上海日本人学校は1学年2クラスでした。香港

では学校で兄に会うことは減多になかったですが、上海ではよく見かけました。上海はこぢんまりしたアットホームな学校という感じでした。

——三上さんが香港と上海にいらした90年代末から2000年代初めは香港の方が日本駐在員は多く、その後上海が増えて上海日本人学校も世界一の大き



香港ではバレエに熱中



三上真奈さん（フジテレビ・アナウンサー）

になりました。

三上 そうなんです。上海日本人学校は制服がなかったですね。

——香港日本人学校は、海外の日本人学校の中では初期に作られ、古い日本人学校には制服がありますが、新設校はなくなっていきました。

三上 なるほど。私服だとおしゃれができるという気持ちがありつつも、でも毎朝服を選ぶのが面倒だなあと思っていました。

——香港ではバレエを習っていたそうですね。

三上 はい。バレエスクールに通っていました。週に3回レッスンがあり、母が送り迎えしてくれました。かなり夜遅くまでレッスンを頑張りました。習い事はいろいろやりましたがバレエが一番長く続きました。やはり自分でも本当に好きだったのだと思います。私が始めると兄が「オレもやりたい」と言い出し、上海では兄妹で通いました。

——上海に行ってからでも続けられたのでしょうか。

三上 上海でもバレエスクールに通いました。6年生の時に上海のスクールの先生から「香港国際バレエ・コンクール」への出場を勧められ、香港に“里帰り”で出場しました。銅賞をいただくことができ、とても良い思い出になりました。

——香港と上海で何か感じた違いはありましたか。

三上 香港は英語が先で次に広東語というグローバルな世界、上海はまずは中国語という「ザ・中国」という世界だったように思います。

香港に住んだのは中国への返還直後でしたが、上海に比べれば様々な人たちが行き交うグローバルな都市と子供ながらに感じていました。

——中学生で帰国して、日本の生活で何か違和感などはありませんでしたか。

三上 日本人学校に通っていましたし、住んでいたマンションにも日本人は多かったのも、日本に戻ってから何か困ったりするようなことはありませんでした。日本のお菓子は香港や上海でも売っていて、でも高くても気軽に買ってもらえませんでした。それが身近にあるのが逆にうれしくて（笑）。

また、今思い返してみると、海外では治安の問題もあり、子供たちだけで行動する機会は少なかったように思いますが、その分家族と一緒にいる時間が長く、家族の距離が近くなりました。家族の絆が強くなったのが海外生活でよかったことだと思いました。

——高校では米国へ留学もされていますね。

三上 ネブラスカ州の高校へ交換留学で10カ月間行きました。父が仕事の関係で海外勤務が多く、両親はグローバルに物事を考える人間に育ってほしいと思っていたようです。その影響もあって留学を決めました。

◆また香港に飲茶をしに行きたい

——アナウンサーを職業として選ばれたことは、海外生活の経験で得たことと何か関係していますか。

三上 そこは明確には分かりませんが、最初からアナウンサーを目指していたわけではありませんでした。早稲田大学に進学して、実は兄も同じ早稲田を卒業してマスコミ関係の仕事をしていたのですが、兄を見ているとすごく楽しそうに働いていたので、私も就活でマスコミ関係を志望しました。マスコミだけでなくメーカーや商社なども受けましたが、その中でフジテレビが、お会いした方に素敵な人が多くて、アナウンサーでなくてもフジテレビに入社したいという思いが強くなりました。ただアナウンサーの試験の方が先で、そこで採用されて今に至っています。

——フジテレビでは朝の情報番組を担当されていますね。

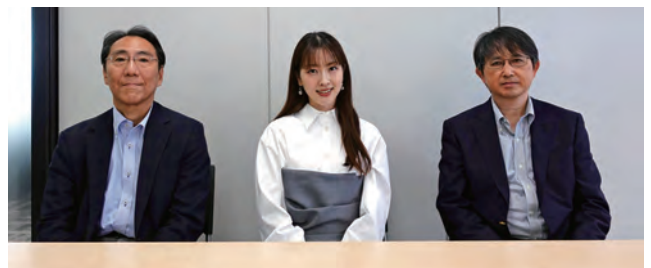
三上 現在は『ノンストップ!』の担当です。以前は『めざましテレビ』にも出ていました。入社以来、ずっと朝の生放送番組を担当しています。番組終了後も取材に出たり、単発の番組の出演や他の番組のナレーションを担当したりと忙しい日々を送っています。

——海外経験を生かした取材などはありますか。

三上 『めざましテレビ』では、ハリウッドの俳優にインタビューする機会が多くありました。アナウンサーになって最初の海外取材もアメリカ映画の取材でした。通訳の方に入ってもらいますが、相手が話す内容に対して、こちらでも感覚でパッとリアクションを取れるのは、海外経験が生きているかなと思います。英語も中国語もまた勉強し直したいと思っています。

——帰国後に香港に遊びに行かれたことは？

三上 それが一度もないんです。昨年、香港を紹介する番組『キニナル香港』のナレーションを担当する機会があり、また行きたくくなりました。飲茶が大好きなのでぜひ本場の点心類を食べに行きたいです。



左から伊東、三上さん、平野

〈三上真奈さん略歴〉

1989年東京都生まれ。父親の仕事の関係で2歳から12歳まで台湾、香港、上海で過ごす。早稲田大学卒業後、2013年にフジテレビにアナウンサーとして入社。朝の情報番組『めざましテレビ』などを担当後、現在は朝の情報番組『ノンストップ!』のMCを務める。

シンポジウム「国際ビジネスセンター・ハイエンド市場としての香港の価値を再評価する」東京と大阪で開催

香港貿易発展局 コーポレート・コミュニケーション・エグゼクティブ 村瀬 絵美

2024年11月21-22日、香港貿易発展局・日本香港協会主催によるシンポジウム「国際ビジネスセンター・ハイエンド市場としての香港の価値を再評価する」がインターコンチネンタルホテル（大阪会場）と如-water会館（東京会場）で開催され、官界・財界・メディアなどから合計約450名の方々にご参加いただきました。

大阪会場では、香港貿易発展局のベンジャミン・ヤウ日本首席代表の開会挨拶で幕を開け、近畿経済産業局の信谷和重局長からの歓迎挨拶、中華人民共和国駐大阪総領事館の薛劍総領事、香港経済貿易代表部のレオ・ツェー首席代表代理による来賓挨拶が行われ、基調講演ではアライアンスフォーラム財団の原丈人会長が登壇。続くパネルディスカッションでは、日本貿易振興機構の高島大浩理事をモデレーターにお招きし、京阪ホールディングス株式会社の加藤好文代表取締役会長CEO、ロート製薬株式会社の山田邦雄代表取締役会長、EPSホールディングス株式会社鷺北健一郎執行役員がパネリストとして活発な意見を交わしました。

東京会場では、香港貿易発展局のベンジャミン・ヤウ日本首席代表による開会挨拶、香港経済貿易代表部レオ・ツェー首席代表代理の歓迎挨拶、中華人民共和国駐日本国大使館の羅曉梅公使と経団連日本・香港経済委員会の國部毅委員長（三井住友フィナンシャルグループ会長）の来賓挨拶に続き、アライアンスフォーラム財団の原丈人会長による基調講演、日本貿易振興機構の高島大浩理事がモデレーターを務めたパネルディスカッションにおいては、株式会社商船三井の池田潤一郎取締役会長、住友商事株式会社の南部智一取締役副会長、ロート製薬株式会社の山田邦雄代表取締役会長がパネリストとして登壇し、各々の香港に対する見識を共有しました。

両会場共通で行われた「最新の国際情勢～日中関係・日米関係から読み解く真の香港の利用価値とは？」と題した基調講演には、「公益資本主義」の提唱者として広く知られ、安倍政権時代には内閣府参与を、続く菅政権、



東京会場の登壇者集合写真

岸田政権、石破政権においても首相の指南役を務める原会長が登壇、国際的な経済動向に対する鋭い洞察のもとに、香港のビジネス環境や事業機会について独自の視点からの見解を共有しました。原会長は、香港の卓越したインフラと世界水準の学術研究環境を讃え、特にAIやロボティクス分野における新たな展開について紹介、その上で、香港が科学技術開発の拠点として持つ潜在力・重要性を強調し、今後の成長の可能性について示唆しました。

パネルディスカッションでは、2023年まで香港ジェトロの所長を務めた高島理事が両会場でもモデレーションを担当、同じく両会場に登壇した山田会長は、香港の迅速且つ柔軟な対応力が研究開発分野においても競争優位性を生み出していると説明しました。大阪会場のパネリストを務めた鷺北執行役員は、香港が持つ歴史的背景と、その成長の原動力となる多様性と人材受け入れ体制について語り、アジア市場開拓を目指す企業にとって香港が不可欠なビジネス拠点であることを強調しました。同じく大阪会場でパネリストとして登壇した加藤会長は、香港からの訪日観光客の多さ、日本食文化への関心、日本製品への旺盛な消費力について触れ、日本との強い絆を示すとともに、2025年大阪・関西万博など、香港からのインバウンド観光客に対する期待を示しました。東京会場のパネリストを務めた池田会長は、香港の物流拠点としての強みに加え、香港における自社の新たなSDGsに関する施策について説明しました。同じく東京会場のパネリストとして登壇した南部副会長は、直近の香港出張で得られた知見に基づき、香港が世界でも類を見ない卓越したビジネスインフラを有している点に触れ、香港現地法人によるスタートアップ支援など新たな取り組みについて披露しました。

シンポジウムでは、香港の国際ビジネスセンターとしての機能と魅力、広域経済圏構想「広東・香港・澳門大湾区（GBA）」の市場性と成長可能性についても活発な意見が交わされるなど、香港の将来性についてポジティブな情報発信ができる場となりました。



原丈人会長による基調講演



NATIONAL

全国連合会

日本香港協会 全国連合会 事務局

「第25回香港フォーラム」& 「第14回全国協会総会・交流会」開催報告

去る12月3日、4日、香港ビジネス協会世界連盟の世界大会である「香港フォーラム」が、香港コンベンション&エキシビション・センターにて開催されました。今年は全世界から約320名の会員が参集、日本からは75名のメンバーが参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。

2日間の会期中には、ウェルカムディナー、昼食講演会、パネルディスカッション、視察ツアー等数多くのイベントが催されました。初日のプレナリーでは、元香港特別行政区政府司法長官袁国強（Rimsy Yuen）氏により香港が国際金融・ビジネスセンターとして繁栄し続けるに当たり、法の支配と強力な国際間の協力関係を維持する重要性について言及しました。続くセミナーでは国際ビジネスとイノベーションセンターとしての「北部都会区」にフォーカスし、持続可能性への取り組みとイノベーションの包括的な概要について説明されました。

開催初日の夜は、「オリエンタルパールハーバークルーズ」を貸し切り、豪華客船の中で世界各地から集結したメンバーが交流するとともにウェルカムディナーを楽しみました。本年は、香港フォーラム開催25周年を記念し、これまでフォーラムに貢献をした会員に授与される「ロイヤリティ・アワード」の授賞式が行われ、15回以上フォーラムに参加した会員に授与される「シルバー・アワード」を、東京協会の原田光夫名誉顧問、佐藤征洋会長、原義弘理事、沖縄協会の福地敦士事務局長がそれぞれ受賞、18回以上参加した会員に授与される「ゴールド・アワード」を関西協会の戒田真幸会長が受賞しました。授賞式の後にはデッキで各国からの参加者によるパフォーマンスが披露され、美しい夜景をバックにメンバー一同楽しいひと時を過ごしました。



「ロイヤリティ・アワード」を受賞したメンバー会員

2日目の昼食講演会には香港特別行政区政府行政長官李家超（John Lee）氏が登壇しました。2022年5月に就任した李氏は、常に革新を推進する香港の魅力を参加者に発信、高度な自治によって、香港の長期的安定と繁栄を維持して行く決意について語り、香港の希望溢れる未来を参加者に伝えました。

世界各地の協会の活動に対する表彰式では、多数の応募の中から、若手会員の増強や活動内容が評価された宮

城協会が「ヤング・メンバー・ディベロップメント・アワード」を受賞しました。また、各地区を代表するスタートアップの中から、成績優秀企業に贈られる「ベスト・スタートアップ・アワード」を宮城協会の会員である門間一泰氏が香港に設立した現地法人が受賞、全世界のメンバーから喝采を浴びました。



2つのアワードを受賞した宮城の会員と日本香港協会のメンバー

◆全国の日本香港協会メンバーが香港に集まりました

香港フォーラムの前日、12月2日には、「ビクトリア・ハーバー・スプリーム」において第14回全国協会総会と交流会が開催されました。全国11協会の代表が出席し、全国連合会佐藤征洋会長が議長を務めた総会では、本年度の活動の振り返りと来年度の新たな事業計画が討議され、監査や人事に関する報告がなされました。

全国交流会では本年度の幹事協会である新潟協会の大島和憲事務局長の進行のもと、佐藤会長の開会挨拶、在香港日本総領事館西海茂洋総領事代理からの来賓挨拶、香港貿易発展局サービス推進部アソシエイト・ディレクターのバイロン・リー氏の乾杯で幕を開けました。

交流会の終盤では、来年度のアジアフォーラムを主催する新潟協会の吉田至夫会長から、フォーラムの概要（テーマは「食でつながる香港、新潟、アジア」、会期は2025年5月21-23日、開催地は新潟市と魚沼エリア）についてご案内があり、日本の11協会のメンバーからも多くの方々に参加していただきたいと訴えました。その後、香港貿易発展局東京事務所長伊東正裕氏から香港フォーラムの紹介・説明があり、最後に香港貿易発展局首席代表兼日本香港協会全国連合会事務局長ベンジャミン・ヤウ氏から、日本から多くの皆様に参加いただけたことへの感謝の辞とともに閉会の挨拶がありました。

全国交流会は、年に一回、各地協会のメンバーが一堂に会し、交流ができる機会ですが、今年も約90名の方にご参加いただき、大盛況の宴となりました。



香港で一堂に会する日本香港協会の会員



第19期CMMS「華人経営研究」講座 は6月開講です

前期も全講座をオンライン化した結果、海外含む全国各地から66名の応募を頂き、九州、関西日本香港協会からの受講もありました。今期は来る6月より開講致しますので、各地の日本香港協会の会員の皆様には奮ってお申し込み頂きますようお願い申し上げます。

- ・開催期間：2025年6月5日より10月30日まで
毎週木曜日（8月は休止）
- ・時間：19時～20時45分（日本時間）
- ・形式：全講座オンライン・録画視聴可
（自宅または勤務先で受講可）
- ・内容：理論編8講座、実践編9講座 全17講座
- ・受講料：会員4万円、一般5万円、
分割受講可（4千円／講座、3講座以上）
- *理論編又は実践編のみの受講も歓迎します
（会員2万5千円、一般3万円）
- ・募集人員：50名
講座概要は次の通りです。

理論編：古代から現代まで思想文化と歴史を概観し、そこから派生した「国情」「中国思想」「戦術」の3つの分野に焦点を当て、中国人特有の関係、面子、人情の本質に迫ります。

実践編：理論編で得た知識を実践で生かせる講座です。「経済分析」「事業経営戦略」「リスクマネジメント」「香港コネクション」の4つの分野で経済界中心に活躍中の9名の講師が、現場での経験談を含め実践的な講義を行います。

昨今は特に中国経済を取り巻く環境の激変を鑑みて、低迷する実体経済の解明や事業リスクマネジメントに焦点を当てた講座も用意致しました。詳しくは「受講申込書」を含めて日本香港協会のHPの「チャイニーズ・マネジメント＆マーケティングスクール」に掲載中です。皆様、是非奮ってご応募ください。



CMMSパンフレット

NPO法人日本香港協会（東京）理事 古川 真理子

2024年日本香港協会ゴルフ懇親会開催

日本香港協会主催の「2024年日本香港協会ゴルフ懇親会」を9月11日に千葉県泉カントリークラブにて開催しました。都心からわずか50kmというロケーションの良さ、地下鉄東西線乗入れ駅からクラブ送迎バスもある交通アクセスの良さと、静かで緑に包まれた林間コースのゴルフ場です。

2023年は台風上陸予報により直前でやむなく開催中止の決定をした経緯があった為、今年も最大の関心事はお天気でしたが、抜けるような青空の見事な快晴に恵まれ、絶好のゴルフ懇親会日和となりました。折からの猛暑傾向もあり、この日もまるで真夏のような暑さの中の開催でした。参加者は当協会会員、友好団体の日本シンガポール協会様会員、両協会会員の友人・知人の一般の方と幅広い方々からの参加者内容で、合計9組35名の方にご参加いただき嬉しい限りです。

コンペ後の懇親会では、軽食プレート＋ドリンクで楽しく懇談されている中、順位発表です。当協会野島副会長および私が司会を務めさせていただきました。毎年、集客と賞品集めには各理事の奮闘がありますが、法人会員企業様や香港貿易

発展局様、また日本シンガポール協会様からも賞品ご提供協力いただき、また理事個人で手配くださった賞品を含め、ニアピン賞以外は参加者全員に何らかの賞品が受け取れるように配慮いたしました。それに加えて今回は初の試みとして、「各自賞品持寄り方式」を採用し、通常の順位による賞品にプラスして、結果順位の良い順番の方から自分が好きな品を選んでいただきましたが、これが結構好評でしたので、またできれば来年も取り入れたいと考えております。

この懇親会も当協会の認知度を上げて一般の方の入会へと繋ぎ、同時に参加者の皆さまにゴルフを通じて楽しんでいただくことを目的としているため、今後は一般の方々への案内も今まで以上に更に広げていきたいと思っております。ゴルフ日和の晴天の中、無事ゴルフ懇親会を開催できたこと、ご協力いただきました関係者の皆さまに深く感謝し、御礼申し上げます。有難うございました。





香港経済の講演・シンポジウム開催

11月21日にインターコンチネンタルホテル大阪にて「国際ビジネスセンター・ハイエンド市場としての香港の価値を再評価する」をテーマにした講演・シンポジウムを開催しました。コロナ以降の中国经济低迷と不動産バブル崩壊の影響を受けて経済が低迷する香港に出入りする外国人も減少している現状から、香港に対しネガティブな報道が増えています。他方、人材豊富な香港の環境が変われば、真っ先に香港が飛龍の如く浮かび上がってくると信じている人も多く、今回のシンポジウムは、共催団体である大阪商工会議所、後援団体である近畿経済産業局、日本貿易振興機構大阪本部などのご支援のもと、過去最大級となる200名近い参加者が集結、大盛況のイベントとなりました。

当日は香港貿易発展局ベンジャミン・ヤウ日本首席代表の開会挨拶に始まり、近畿経済産業局信谷和重局長の歓迎の挨拶があり、中華人民共和国の薛剣駐大阪総領事の来賓挨拶、香港経済貿易代表部レオ・ツェー日本首席代表代行の来賓挨拶があり、基調講演が始まりました。



シンポジウム（原文人氏）

基調講演は、健康で豊かな中間層を世界でつくる新しい公益資本主義を提唱して、米国のシリコンバレーと香港などでIT企業を立派に経営しておられるアライアンス・フォーラム財団原文人会長が「最新の国際情勢～日中関係・日米関係から読み取る真の香港の利用価値とは？」と題して、高度レベルのIT人材豊富な香港に海外の有力大学や企業が多数研究所を持っている実態などを詳しく説明されました。新型コロナ発生当初、米国で医療関係の仕事をしている香港人の若き経営者が香港の大学と提携して、真っ先に低価格のコロナワクチン開発に成功した事例が納得できました。



シンポジウム集合写真

続いて、「国際ビジネスセンター/市場としての香港の役割、機能と活躍法」と題したパネルディスカッションでは、日本貿易振興機構高島大浩理事がモデレーターを務め、京阪ホールディングス株式会社の加藤好文代表取締役CEOとロート製薬株式会社山田邦雄代表取締役会長に香港子会社の役割など、香港に対する熱い思いを語っていただきました。最後に協会の戒田会長が閉会の挨拶をしました。

開催前に、今回のイベントに協力していただいた20名が昼食会で親しく意見交換しました。ハイレベルな内容のイベントは聴衆の皆さまに大変喜んでもらいました。

「香港の集い」懇親パーティー開催

10月28日に大阪聘珍樓で「香港の集い」懇親パーティーを開催し、40名の参加者が美味しい広東料理とラッキードローを楽しみました。

ラッキードローでは33個の景品が提供され、特別賞のキャセイ航空提供のエアカラフトモデルとミニ干支12個セットのくじ引きの際には会場が盛り上がり、楽しいパーティーになりました。



香港の集い



秋季セミナー&特別企画の開催

2024年11月26～27日に、香港の外食大手である美心集団（マキシムグループ）のバイヤーを愛知県へお招きし、秋季セミナーおよび特別企画の商談会と工場見学を実施いたしました。

初日の11月26日は会場となるホテルアークリッシュ豊橋に約20名の会員が集まり、美心集団による基調講演「サプライチェーンの視点から見る香港フードビジネス&日本食の現状と未来」を通して、日本食の魅力や香港市場での存在感について理解を深めました。



美心集団のバイヤーによる基調講演

また、特別企画として開催された商談会には法人会員3社が参加し、各社が自社の商品を香港市場に向けて十分にアピールしました。バイヤーからは実際に商品が採用された場合にどのようなジャンルの店舗で使用される可能性があるかについてのコメントや、店舗での効率の良い調理方法や工場でのオペレーションを想定した質問があり、具体的に商談が進められました。

さらに、セミナーと商談会の終了後には懇親会を開催し、中部日本香港協会の越智会長がお招きした中国で多



商談会の様子



懇親会で開会挨拶をする越智会長

数店舗を展開しているドラッグストアチェーンのバイヤーにもゲストとしてご参加いただき、活発なビジネス交流が繰り広げられて盛会となりました。

2日目の11月27日には会員企業の食品工場などを巡るツアーを開催しました。

午前中に食品工場2社を見学し、昼食には会員企業の商品が採用されているレストランを訪問、そして午後には食品工場1社と食品サンプルのショールームを見学するという充実したプログラムで、それぞれの訪問先において高い製造技術や徹底された品質・衛生管理、長年守り継がれてきた伝統製法が紹介されました。こだわりがつまった製品の試飲・試食にくわえて、香港市場へ向けたユニークなメニューの提案などがあり、バイヤーは興味深く写真やメモを残すなどされていました。



工場見学での集合写真

今後、商談会と工場見学に参加した会員企業の皆様には、商談の成立に向けた積極的なフォローアップを進めていただくことになります。

今回開催された各種イベントをきっかけとして、ご参加いただいた皆様の香港におけるビジネスがより一層躍進することを心から願っています。



会員交流会の成果報告

2024年10月29日、九州日本香港協会主催の会員交流会が福岡市内のピエトロ本店セントラールで盛大に開催されました。この交流会は、会員間の親睦を深めるとともに、地域ビジネスの可能性を模索する貴重な場となりました。本年度は、福岡を拠点とする2つの注目企業（どちらも会員企業）、Doorkeeper株式会社とさくらフォレスト株式会社をお招きし、特別講演を行いました。

◆特別講演

・Doorkeeper(株)：外国人起業家を支えるイノベーション

同社のジョン・クロス代表取締役は、福岡市に拠点を置き、日本に住む外国人や外国人起業家を対象とした郵便物管理サービス「MailMate」を提供しています。MailMateは、郵便物をスキャンしてデジタル化し、内容を要約する機能を持ち、特に日本語に不慣れな外国人がスムーズに郵便物を処理できるよう支援します。また、法人設立のためのバーチャル住所や郵便管理サービスも提供しており、日本市場への参入を目指す外国人起業家を包括的にサポートしています。

ジョン・クロス代表取締役は講演の中で、DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した革新的なサービスの背景や、福岡市を拠点に選んだ理由として、生活コストの低さ、交通の利便性、地域コミュニティの支援体制を挙げました。特に、外国人にとってビジネスを始めやすい環境が整っている福岡市は、同社の成長を支える重要な拠点となっていると強調しています。

MailMateの利用者の多くは日本で起業やビジネスを展開しようとする外国人であり、このサービスが彼らにとってのスタートアップ支援の基盤となっている点も強調されました。

・さくらフォレスト(株)：通販事業の未来を切り開く

同社の西尾和剛取締役は、健康食品や化粧品を中心とした通販事業で、国内外にその名を広めています。2009年の設立以来、台湾、韓国、中国、フィリピン、シンガ

ポールといったアジア市場への進出を積極的に進めてきました。同社の成功の鍵は、現地の文化や消費者ニーズに柔軟に対応する戦略と、高品質な日本製品への信頼に基づくマーケティングです。

さくらフォレスト株式会社 取締役 西尾和剛 (42)

学生時代 大塚高校卒業、九州大学中退
2009年 株式会社ココシスに入社。通販事業。さくらの森事業部立ち上げ。
2014年 さくらフォレスト株式会社として分社 **海外スタート**
2014年 台湾法人、高雄藤森股份有限公司設立
2016年 台湾から、香港、シンガポール展開開始
2017年 ベトナム展開開始 インド・タイ・ロシア・インドネシア・フィリピン展開開始
2017年 韓国展開開始
2019年 フィリピン展開開始
2021年 中国展開開始
2022年 中国展開事業開始
現在 日本国内の通販事業を拡大しながら、海外市場も拡大中

通販の海外展開で大事なこと（さくらフォレスト）

西尾取締役は講演の中で、同社が掲げるビジョンとして「地域に根ざした持続可能な成長」を強調しました。また、物流や決済環境の整備、現地広告戦略の強化を通じて、アジア市場での競争力をさらに高める取り組みについても言及しました。さらに、日本語を話せる現地スタッフを積極的に採用することで、スムーズなコミュニケーションとサービス提供を実現している点が強調されました。

特に注目すべきは、さくらフォレストが取り組む健康食品通販の分野です。この分野では、福岡市が持つ豊富な自然資源や高品質な製品を活用し、消費者に信頼されるブランドを構築しています。西尾氏は、福岡という拠点がアジア市場での成功において重要な役割を果たしていると述べ、地域の資源と国際的なマーケティング戦略を融合させることの意義を語りました。

◆会員交流会の総括

今回の交流会を通じて、福岡市が提供するビジネス環境の強みが改めて浮き彫りになりました。ジョン・クロス代表取締役のMailMateが示す外国人起業家支援の可能性、そして西尾和剛取締役が展開する通販事業は、多くの参加者にとって新たなビジネスチャンスを探るきっかけとなりました。また、福岡市が外国人起業家や地元企業の両方にとって理想的な拠点であることが再確認されました。

九州日本香港協会は、今後も地域経済の発展に寄与する活動を積極的に展開してまいります。福岡市は、健康食品や通販事業、外国人起業家支援の分野でさらなる成長が期待される都市です。このポテンシャルを最大限に活用するため、協会としての取り組みを一層強化してまいります。

mailmate
DX & Bridging the gap for Foreigners in Japan
Supporting foreigners to better manage their mail, business needs and domestic compliance.

Why Fukuoka?

- Great lifestyle—most of our team walks to work with minimal commute times. This is really powerful for employee quality of life.
- A great airport and train system linking with rest of Japan makes it simple to jump on a plane and go meet a potential client anywhere in Japan.
- Affordability—when you start new company, it's high risk. If you can reduce fixed costs around rent, transport, employment, etc., you give yourself more time to succeed.

Why Fukuoka (Doorkeeper社)



山形日本香港協会 事務局

香港国際見本市「Home InStyle」
への出展について

山形県では、山形県産工芸品・デザイン雑貨の海外販路開拓の支援を行うため、2024年4月20日から4日間、香港コンベンション&エキシビションセンターにおいて開催された国際見本市「Home InStyle」へ山形県ブースを出展しました。

また、4月21日には、見本市内で開催されたセミナー【テーマ：Artistry of Japan：Embracing the Timeless Appeal of Traditional Handicrafts（日本伝統工芸品の魅力探索）、モデレーター：独立行政法人中小企業基盤整備機構販路支援部打田覚志マッチング支援課長、登壇者：青森県・茨城県・山形県】には、山形県ハルビン事務所の津田悠佑首席代表が登壇され、パネルディスカッションも行われました。

見本市には、県内の伝統工芸品や木工品を取り扱う22業者が参加しました。これまでは、このような国際見本市には、伝統工芸品や木工品を取り扱う業者のみが参加することが多い傾向がありましたが、今回の参加業者の中には、コロナ禍をきっかけとして香港を含む海外で大きな注目を集めた高級スリッパを生産する業者の参加も新たな傾向としてみられました。

また、今回の国際見本市においても、山形日本香港協会春節セミナー2024において、基調講演の講師ならびにパネルディスカッションのパネリストとしてご登壇をいただいた株式会社門間筆筒店の門間一泰社長にもご参加いただき、山形県の工芸品や雑貨のアピール、販路拡

大にご協力をいただきました。門間社長や山形日本香港協会春節セミナー2024については、飛龍106号において投稿しておりますので、あわせてご確認いただけましたら幸いです。



春節セミナー2024レセプション

山形日本香港協会について

2024年8月29日開催の全国事務局長会議において報告した、山形日本香港協会の執行機関、会員数等について共有します。

同年8月1日時点において、執行機関は会長1名、副会長9名、理事13名、監事1名、顧問3名、事務局1名です。会員数は、法人会員33団体、個人会員5名、特別会員2団体の合計40会員です。ここ数年会員数は横ばいという状況が続いていますので、全国の協会の方の事例等を参考にしながら、会員の拡充に努めていきたいと思っています。



香港コンベンション&エキシビションセンター（撮影：広報委員 小柳淳）



HOKKAIDO

北海道日本香港協会

北海道日本香港協会 事務局長 平山 源

香港での思い出

2024年4月から北海道日本香港協会の事務局長となりました平山です。当協会にかかわるのは今回で3回目となります。初めて事務局運営に取り組んだ際には、香港フォーラムへの参加で香港に行く機会を得ることができました。しかし、不思議なご縁で当協会にかかわるよりもはるか前の1982年7月24日が初めての香港訪問でした。



ヴィクトリアピークからの市街の様子（左端が筆者）

香港に行くきっかけは、父親に連れられて行ったスーパーのクジ引きの特賞「香港・マカオ旅行」の当選でした。生まれて初めての海外旅行でパスポートは学校を休んで母親に連れられて手続きに行き、飛行機にもほとんど乗ったことも無いなか、キャセイパシフィック航空で伊丹空港から香港に家族で向かいました。現在札幌からも香港へは直行便が飛んでいますが、この時は台湾経由での飛行でした。また、その年国内で大きな航空機事故が起こった事もあり、啓徳空港に着陸した時に機内で大きな拍手と歓声が起きたのを今でも覚えています。

旅行自体はパッケージツアーだったことから、空港から全てバスでの移動で、香港ではタイガーバームガーデンやヴィクトリアピーク、レパルスベイ、二階建てトラムへの乗車、水上レストランJUMBO、マカオでは聖ポール天主堂跡のほか、中華人民共和国の珠海にも短時間で訪ねました。パッケージツアー以外の自由時間には、夕食の中華料理店に家族でスターフェリーに



レパルスベイで海水浴を楽しむ人達の前で（中央が筆者）

乗って向かいましたが、お金を入れてもゲートを通すことができず泣きそうになりながら親に助けられました。

高い建物の窓から道路に向かって伸びたいくつもの棒に干されている洗濯物や、漢方薬のお店で飲んだ謎の黒い液体、マーケットで食用として売られていた生きた動物、ツアー

のバスに使用済み切手のシートを売りに来る子供たち、トイレに行くと使用料を徴収する人がいた事など、この時12歳だった私にとって刺激的・衝撃的な様々な経験をする機会となりました。

それから42年の月日が経過して香港と日本・北海道の関係は大きく変わったと感じます。現在は観光旅行で数多くの方が香港から北海道に訪れています。また、香港貿易発展局と北海道庁が経済協力の覚書、札幌市がMOUを締結するなど公的機関の交流だけでなく、経済面では北海道から香港に向けて多くの食品が輸出されており、ラーメン店をはじめとする飲食店などが数多く香港に出店するなど、民間でも活発な取引が行われております。更に、近年は北海道のリゾート開発への香港からの投資も進んでいます。



香港入境時のパスポートのスタンプ



トラムからの景色

これまで当協会は北海道と香港のビジネスや文化など様々なシチュエーションでの橋渡し役として活動を行っていましたが、これからも引き続き関係が強化されるよう微力ながら取り組んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



第112回理事会および事務局会議を開催しました

令和6年11月14日、第112回理事会および事務局会議を開催し、各事業の進捗報告と今後の計画について議論を行いました。

今回の会議では、特に以下の三つのテーマを中心に話し合いが行われましたので、その内容についてご報告いたします。

◆香港フォーラム

はじめに、12月の香港フォーラムについてです。参加者の間では、今回のフォーラムに向けた期待が非常に高まっており、充実した交流と学びの場になることを期待する声が多数寄せられました。香港フォーラムは例年、参加者同士のネットワーキングや新たなアイデアの創出につながる重要な機会であり、今回もその役割を果たすと確信しました。当日は活発な意見交換が行われ、今後の活動に役立つ新たな視点や刺激が得られました。

◆アワード受賞（香港フォーラム）

次に、香港フォーラムのアワードプログラムにおいて、「ヤング・メンバー・ディベロップメント・アワード」と「ベスト・スタートアップ・アワード」の2つの賞を受賞することが決定した件についてです。

このような名誉ある賞をいただけることに、心から感謝申し上げます。この受賞は、これまでの努力が評価されたことを示すものであり、関係者一同、大変光栄に感じております。加えて、新しいヤングメンバーが加入し、今後の活躍が非常に楽しみであるとの声も多く挙がっています。今後、さらに多くの若手が参加し、組織の活力を高めてくれることを期待しています。

12月のフォーラム内でのアワード授賞式では、正式



ヤング・メンバー・ディベロップメント・アワード受賞

な表彰が行われました。この機会を通じて、受賞を糧にさらに活動を充実させ、今後の課題と目標に向けて新たな意欲を持って取り組んでまいります。



ベスト・スタートアップ・アワード受賞

◆セミナー&パーティー

最後に、令和7年に開催予定の春節セミナー&パーティーについても議題に上がりました。

このイベントは、新年を祝う行事であると同時に、メンバー間の交流を深める重要な機会として位置づけられています。特に、セミナー部分では、最新の経済動向や国際的なトピックをテーマに講演やパネルディスカッションを予定しており、参加者が新たな知見を得られる内容となるよう準備を進めています。また、パーティー部分では、参加者同士がリラックスした雰囲気の中で意見交換や親交を深められる場を提供することを目指しております。本年度の成功を振り返るとともに、新年度に向けて会員一人ひとりが意識を新たにし、次なる挑戦への結束を高める貴重な機会となることを期待しています。

以上が第112回理事会および事務局会議で話し合われた主な内容です。これからも、会員の皆様からの貴重なご意見やご提案を積極的に取り入れながら、さらなる活動の向上に努めてまいります。



第112回理事会および事務局会議



OKINAWA

沖縄日本香港協会

沖縄日本香港協会 事務局

令和6年度 通常総会・ビジネスセミナー開催

令和6年10月22日、中小企業振興会館2階ホールにて沖縄日本香港協会の総会が開催されました。沖縄日本香港協会の会長に新たに金城克也（沖縄県商工会議所連合会会長）が就任して以来初めての総会となりました。

冒頭、金城会長は次のように挨拶されました。「香港はここ数年、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けましたが、その後順調に経済は回復し、その地理的優位性や交通インフラ、金融システムの強固さは依然として変わりません。今後もアジアのゲートウェイとしての重要性は揺るがないものと見られております。

最近の香港と沖縄の経済的交流をみますと、令和5年度は、5月に香港－那覇便の増便が実現し、10月からはクルーズ船の寄港も再開しました。その結果、香港からの観光客数は、約12万人とピークだった平成30年度の64%まで回復し、地域別でみると台湾・韓国に次ぐ3位となっております。観光面からも、香港は沖縄にとって非常に重要な地域です。また、香港と沖縄間はその地理的近さを活かして観光やビジネスの交流が活発化しています。我々の協会は、経済交流だけでなく、学術、文化、スポーツなど広範な分野での交流を推進し、アジア・太平洋地域における沖縄の結節機能を強化する役割を担っています。

本日は、シティ・スーパー・ジャパン沖縄の木村支社長と香港貿易発展局大阪事務所の田中次長をお迎えし、香港の最新情勢についてご講演いただきます。皆様が香港への理解を深めていただける機会となれば幸いです」



沖縄日本香港協会 金城克也会長挨拶

総会では、令和5年度事業報告・収支決算及び令和6年度事業計画・収支予算が承認されました。

その後は、ビジネスセミナーを開催し、シティ・スーパー・ジャパン沖縄支社木村政昌氏より「沖縄国際ハブの可能性とシティ・スーパー・ジャパンの挑戦～香港を含めたアジア市場への架け橋」と題して講話いただきました。



シティ・スーパー・ジャパン沖縄支社長 木村政昌氏

木村氏は「シティ・スーパーは、香港に6店舗、台湾に7店舗、上海に4店舗展開しており、比較的高価格帯のスーパーマーケットで、シティ・スーパー・ジャパンは、シティ・スーパーに日本の優れた商品と文化を積極的に紹介するため1999年に設立されサプライチェーンと商品・事業開発を行っています」と会社説明を行った後、「沖縄支社としても沖縄の地元企業と連携し、地域資源を生かした製品展開やアジア全域に向けた物流戦略に取り組んでいる」と語りました。

香港のマーケットについては「香港は日本製品に対し高い需要があり、特に品質に対する信頼感が強い市場である。一方、世界中から商品が集まることからかなり競争が高い市場。香港の消費者のニーズを捉えることが大事だ。また日本のテレビ番組やSNSで紹介された商品に関心が高まることが多い」と語り、IKKOさんのメディア効果で沖縄のシークワサーの販売が増加した例を紹介しました。また、「沖縄国際物流ハブは物流のインフラが整っており、特に那覇空港と那覇港のアクセスが良く、臨空臨港の物流施設が整っている。新型コロナウイルスの影響で輸送主眼が、貨物機から旅客機へと変わり、搭載量が制限される中、B to C物流（個人向け配送・越境EC等）が重要になってきており、今後はそのような新しい物流や商流モデルへも取り組んでいきたい」と語りました。

続いて香港貿易発展局大阪事務所の田中洋三次長からは、香港の最新情報として、香港人の「北上消費」について、「安く質が向上した中国本土での買物、レジャー、グルメを楽しむ香港人が増え、返還休日（7月1日）を含む3連休に中国本土に入った香港人が約127万人に上った」ことや、香港人の旅行先での消費トレンドは、①種類・衣料・靴鞆の単価のアップ、②モノ消費からコト消費への移行、③訪問先と自分自身で決めるレンタカーの利用増加が報告されました。

沖縄日本香港協会では引き続き、香港との交流・ビジネスに役立つ、最新の情報やトピックスを提供すると共に、会員相互の交流を行って参ります。



広島－香港直行便再開

2024年11月1日、香港エクスプレスが運営する広島空港から香港国際空港への直行便が週3便の運航で再開しました。コロナ禍の影響で2020年3月から運休しており、実に4年8ヵ月ぶりの運航再開になります。日本国内では高松に続き、香港エクスプレスの一社のみが香港への直行便を運航する空港となり、約4時間20分のフライトで香港へ到着することが可能になりました。



香港エクスプレス

長引く円安などの影響もあり、香港からは多くの旅行者が日本を訪れ、日本政府観光局（JNTO）が発表した直近2024年10月の訪日香港人数（推計値）でも、コロナ禍前の2019年比で10.1%増、2023年比においても10.9%増の19万8,800人とコロナ禍での落ち込みから回復し、コロナ禍前を上回り単月として過去最高を更新しています。これは、国内他空港における香港への増便が影響しており、この度の広島-香港便再開は訪日香港人数の更なる押上げに寄与するものと考えています。

当協会でも今回の運航再開を非常にうれしく思っており、香港とのつながりがこれまで以上に強くなるものと期待しているところです。また、香港国際空港はアジアのみならず、世界有数のハブ空港であることから、乗り継ぎを利用して香港以外の様々な国からの観光客の来広も期待できるなど、広島県の魅力を発信できる絶好の機会だと思っております。

直行便の再開前、香港からの観光客は関西国際空港等のフライトを利用して広島を訪れ、世界遺産である「厳島神社」や「原爆ドーム」のような代表的なスポットが観光目的の中心ですが、この度の広島-香港直行便を利用することで、

こうした世界遺産や広島市内の他、「鞆の浦」がある福山や瀬戸内海に点在する島々・多島美を眺めることができる「しまなみ海道」など風光明媚な観光地、食べ物では生産量日本一のカキやレモンをはじめとする瀬戸内の豊かな魚介類やかんきつ類等のグルメなど、香港の方々に訴求できる広島の様々な魅力を発信できるのではないかと感じています。香港における日本への人気は根強く、定期便の就航を機に年に何度も日本を旅行するリピーターが多いなど、広島の食・文化に触れ広島のファンになってほしいと願っています。

また、広島空港には到着ロビーから徒歩3分で利用できる、中四国最大級のレンタカー統合施設が2024年7月に新設され、以前よりもレンタカーを利用しやすくなったことで、福山・尾道、県北等、広島県内の周遊が便利になるとともに、片道に関西国際空港や福岡空港を利用し、関西・中四国・九州等の他の県と組み合わせた、広域での周遊の選択肢も広がっています。

〈広島空港-香港国際空港線の概要〉

①フライトスケジュール

香港発9:15⇒広島着13:30／広島発14:40⇒香港着18:00

②機材

A320（180席または188席）

※2025年1月18日からは月・水・金・土の週4便に増便予定

なお、「香港フォーラム2024」へ合わせた香港視察では、帰路の便で香港発広島着の香港エクスプレスに搭乗しました。次回の飛龍において、香港視察の様子を報告させていただきます。



福山・鞆の浦 常夜燈（提供：福山観光コンベンション協会）



NIIGATA

新潟日本香港協会

新潟日本香港協会 事務局

アジアフォーラム in 新潟2025
キックオフミーティング&決起集会の開催

去る10月16日、2025年5月に新潟市での開催を予定している「アジアフォーラム in 新潟2025」に向けたキックオフミーティング&決起集会を開催しました。当日は総勢20名近くの方々にご参加いただき、開催の趣旨説明や、昨年ベトナム・ホーチミンで行われたアジアフォーラムの報告を行いました。会の冒頭では、ホーチミンでの吉田会長による新潟誘致プレゼンテーションの動画を上映しました。約5分間のスピーチには「世界に新潟を知ってもらいたい」という会長の熱い思いが込められており、その情熱が参加者の心をつかみました。プレゼンテーションの中で、「お酒」や「お米」といった新潟の魅力に海外の方々から歓声が上がったことは、地元を誇りに思える瞬間でもありました。

当日はメディアやホテル業界の会員をはじめ、新潟県や新潟市の担当者にもご出席いただきました。参加者それぞれが、新



キックオフミーティング&決起集会

潟開催への意気込みや、各社と香港とのつながり、新潟をどのようにPRできるかについて語り、会場全体が熱気に包まれました。また、懇親会では交流が深まり、具体的な連携への期待が高まりました。2025年の新潟アジアフォーラム開催に向け、民間企業と自治体が一丸となって成功に向けた取り組みを進めていきます。日本国内の協会の皆様にも、ぜひ新潟にお越しいただき、地域の魅力を直接ご体感いただければ幸いです。

シンガポール香港ビジネス協会
デニス・チュー会長、新潟訪問

11月初旬、シンガポール香港ビジネス協会のチュー会長が今年のアジアフォーラムの視察を兼ねて、3日間にわたり新潟を訪問されました。今回の訪問では、協会として吉田会長との食事会や新潟観光をご案内し、新潟の魅力を存分にご堪能いただきました。初日には料亭にて吉田会長とともに日本料理を楽しみ、古町芸妓（ふるまちげいぎ）の優雅な演技を鑑賞されました。古町芸妓とは、新潟市中心部の古町エリアで活動する伝統的な芸妓（芸者）のことで、この地区は江戸時代から花街として栄え、新潟港の繁栄とともに全国有数の花街として知

られてきました。現在もその伝統を受け継ぎながら、観光や文化活動を通じて新潟の魅力を国内外に発信しています。



古町芸妓

2日目以降は、新潟の歴史と文化に触れる体験を楽しんでいただきました。北方文化博物館では、歴史的な建築や生活文化について学び、酒蔵見学では新潟の日本酒の製造工程を見学。地元産の日本酒の味わいを堪能し、特にお気に召された様子でした。さらに、燕市産業史料館では新潟の金属加工産業技術とその歴史に触れる貴重な機会を持たれました。今回の訪問を通じて、チュー会長には新潟の豊かな文化や歴史の魅力を深くご体感い

ただき、新潟とシンガポール香港ビジネス協会との交流がさらに深まる契機となりました。



古町芸妓お座敷での吉田会長とチュー会長

輝きを放ち続ける「東方の真珠」香港

（崔為磊中国駐新潟総領事からのメッセージ）

香港の祖国復帰から27年間、中国政府は「一国二制度」「香港住民による香港統治」、高度な自治の方針を断固堅持し、「一国二制度」の香港特別行政区での成功は世界で広く認知されています。香港地区の27年間のGDP成長率は年平均プラス2.7%で、同時期の世界の先進経済体の平均を0.8ポイント上回っています。近年、香港地区は世界第3位の国際金融センターに返り咲き、投資環境、国際貿易、航空貨物などで世界一の座を保っています。

「一国二制度」方針の下、香港特別行政区は国家の憲法を尊重し、国家の政治制度の維持、国家安全保障、国家の統一、領土保全で重要な責任を担っています。香港国家安全法の施行、選挙制度の改善、粤港澳大湾区建設の推進に伴い、香港地区は中国と世界の交流・協力の懸け橋となっています。昨年10月9日の「中国本土-香港間の経済貿易緊密化協定（CEPA）のサービス貿易に関する第2次改正協議」の合意により、香港地区は国家の発展の大局により組み込まれていきます。香港地区の明日は希望に満ちており、各方面が香港地区と中国のチャンスを享受することを心より歓迎します。



新年好！

明けましておめでとうございます。昨年一年は皆さんにとってどんな一年でしたでしょうか。高知は一昨年の観光入込客数が統計以降、過去最高とのことで、その良い流れが昨年にも継続した一年となりました。インバウンドの影響が日本国内では鈍い位置づけの高知でしたが、その伸びも大きな一年となり、特に高知としては非常に有難い、台湾との就航便が大好評を博しており、今後もさらなる伸びが期待できます。香港のお客様も増加をしておりますが、今はまだ高知との直行便が就航されていないのが寂しい現状であります。高知～香港の定期便を夢見ながら、より良い関係性を構築していきたいと強く願う年頭であります。

そんな高知の状況でございますが、当協会におきましては、高知の事業者を香港ビジネスに繋げるべく、セミナー等を通じ周知をしております。また逆も然り、日本香港協会でのご縁もあり、森本会長の友人のステーブ・ウォンさんが「高知駅」という店舗をセントラルにオープンいたしました。ウォンさんは高知に何度か訪れており、高知の食や酒などの文化に魅力を感じ、香港でもこの文化は絶対に受け入れられると確信し、高知の魅力を目一杯詰め込んだ店舗を経営されております。今号では、そんな高知駅をご紹介します。



オーナーのウォンさん（右から3番目）とスタッフたち

「高知といえば？」この問いに、多くの方は「カツオのタタキ」と答えるでしょう。実際に日本国内の有名旅行誌の読者アンケートでも、ご当地ならではの美味しい食材ランキングで常に上位に位置し、日本一も何度も獲得している「カツオのタタキ」は、全国各地からこれを目当てに多くの方が訪れております。高知駅の最大の魅力といっても過言ではないのが、写真の藁（わら）焼き



豪快な藁焼きタタキは絶品です

パフォーマンス。高知から仕入れた藁で一気に焼き上げるパフォーマンスが大人気だそうで、焼き立てのタタキは絶品の一品。おそらく香港では高知駅のためのパフォーマンスではないでしょうか。その他にも土佐酒がズバリ。高知には18酒蔵の日本酒がありますが、実は全国最多の金賞を受賞しております。全国各地1600ほどの酒蔵がある中、この快挙は素晴らしいものです。焼き立てカツオのタタキに、旨い土佐酒。とくれば、地元高知の人々も大喜びの組み合わせ。これが香港で味わえるのだから、試さぬ手はありません。高知の食材や情報がたくさん詰まったお店は魅力満載！お近くの際には是非足を運んでください。

住所：G/F, 46 Graham Street, Soho, Central（中環蘇豪嘉咸街46號地舖）

予約電話：94461266

そしてここ高知駅のオーナーウォンさん、高知の魅力をさらに発信したいとの思いで、2024年の年末に2号店となる「高知城」をオープンいたしました。

住所：香港銅鑼灣駱克道487-489號 駱克駅20-21F

こちらも併せてご紹介いたします。

さて、2025年は巳年。ヘビは脱皮を繰り返し成長することや、生命力の強さから、再生、復活、長寿を象徴し、ヘビの皮を財布に入れておくと金運が増すなど、縁起のいい生物としても知られています。昨年は経済が活性化し、人の往来も増加をしております。まさに経済の再生と復活の年になることを願うばかりです。

また日本においては、本年4月13日から10月13日の184日間、2025年日本国際博覧会～大阪・関西万博～が開催されます。関西協会の皆様にとりましても大忙しの一年になるかと存じます。ご活躍をお祈りいたしますとともに、全国の協会の皆様にとっても佳き一年となりますことを併せて心からお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



飛 龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

NPO法人日本香港協会（東京） 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易發展局内

中部日本香港協会 電話 (0533) 77-2468
〒441-0304 豊川市御津町佐脇浜3号地1-27 株式会社平松食品内

九州日本香港協会 電話 (092) 260-3748
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025
〒980-0021 仙台市青葉区中央1丁目6-18 山一仙台中央ビル8階
株式会社Sola.com内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ4階
ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-1250
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570
〒780-0056 高知市北本町4-4-7 パールマンション1301
株式会社オルトル内

東京にしながら
香港本場の味をお楽しみ頂けます

香港の名店「喜記」の日本一号店。
避風塘料理を中心に焼物・点心・海鮮・麺飯・デザートまで
香港の名物料理を幅広くご用意しております。
本場で修業した熟練のシェフがお作りする料理を
ぜひ心ゆくまでご堪能ください。

喜記

HEIGEI



〒104-0061 東京都中央区銀座5-7-10EXITMELSA 7F
東京メトロ銀座駅A2出口より徒歩2分・JR有楽町駅より徒歩7分
平日 【LUNCH】 11:30～15:00 (LO 14:30)
【DINNER】 17:30～22:00 (LO 21:30)
土日祝 11:30～21:00 (LO 20:30) ※17:30よりディナー対応
定休日 年中無休

HP



Instagram



ご予約・お問合せ 050-3173-1505

Coupon

ディナーコースを **15%** 割引

- ・2名様以上のご利用が対象です。
- ・ご注文の際に本冊子をご呈示ください。
- ・有効期限 2025.5.31